

ガンコ親父の

あるところに松次郎という少年がいた。松次郎の村の住民は牧畜や農業で生計を立てていて、松次郎少年一家も牧草地で細々と羊を育てていた。

村には松次郎少年と同じ年の大地主の息子がいた。その子の家は数多くの羊を飼い、村一番のお金持ちだった。羊の世話にもタータンチェックの牧童服に金ピカのボタンという派手ないでたちで、少年には手が届くはずもない高額なスイス製のアーミーナイフだって携帯していた。友達たちには、いつも「大地主の息子なんだ」と自分の恵まれた境遇を自慢していた。しかし大地主の息子は恵まれた環境に慣れ切っしてしまい、松次郎少年ならビックリするようなご馳走でも当たり前前すぎて喜べなかった。本当の幸せは何なのか誰も教えてくれない中、「これは楽しめるな」と、突然湧き出たアイデアにニヤツとした。

翌日、大地主の息子は牧草地を駆け下り、村中に響き渡るような大声で「狼が、狼が来た!」と叫び続けた。村のみんなは狼が出たら一大事とばかり、鉄砲や棒っ切れを手に息を切らして現場に駆けつけた。しかし周囲を見渡しても羊たちもみんな静かに草を食べているだけだった。「あれっ、さっきの狼がいなくなっている?」と大地主の息子は嘘をついた。騙されたのも知らずに、みんなは「何事もなくてよかった」と帰って行った。大地主の息子は腹を抱えて大笑い。「ふふふ、スカッとした」。

翌週、大地主の息子はまた「狼が、狼が来た!」と声を張り上げた。駆けつけてきた村のみんなは「坊ちゃんを疑うわけではないけど、狼はちゃんと現れたのですよね?」と静かな羊たちを前に戸惑いを隠せなかった。「僕を疑ってるの? 松次郎じゃないんだから嘘なんてつかないよ」と平気な顔で言った後、「大地主の息子なんだ」と付け加えた。みんなは世話になっていいる大地主に頭が上がらないのだ。とりあえずは腑に落ちないものの、「へへっ」と一同、大地主の息子に頭を垂れたのだった。みんなが帰った後、大地主の息子はまた、ひっくり返って「ケケケ」と笑いこけた。

そのまた翌週、「狼が出たよ!」と叫びながら村に向かっ走っている少年がいた。その声を聞いた大地主の息子は「ハハハ、松次郎が俺の真似をしでかす、馬鹿なやつ」と呟いた。普段から草原を走って鍛えている松次郎の脚は狼に負けないくらい速かった。村のみんなは、すぐに松次郎の牧草地に駆けつけ、間一髪、松次郎の羊は被害から免れた。賢い狼は経済原則にのっとり、すでに獲物の多いほうへ向かっていたのだ。大地主の子羊たちは可哀想にみんなもぐもぐと狼に食べられてしまっていた。

狼は帰り際、「ラム肉」にはやっぱり「しまっちゅ伝蔵」だなど、酒を持ってこなかったことを悔いていた。しかしまあ、この村の住民の結束力には驚かざるを得ない。あの空気中に住み着くという、この姿が見えない悪魔に襲われても、この村だったらさきと大丈夫だろう。外出禁止令だって団結して守るだろうし。あの大地主の家族だけは知らんけど、と爪楊枝を使いながら狼は思った。まあ、とにかく俺たちも気をつけなにと。



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

常圧蒸留

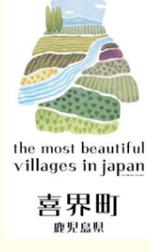
昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251

好評発売中
25度

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



「狼が来た」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。